

調査報告書

- 1 とき：2012年1月6日
 - 2 行先：船見寮・南部市場
 - 3 参加者：田口一登、山口清明、さはしあこ、政務調査補助員（浜田）
 - 4 主な内容
 - * 船見寮・・・小杉主幹に説明を受け、施設を見学した。
 - ・ 昭和52年開設の市の年末年始無料宿泊施設。
 - ・ 初めは国鉄の構内寝泊り者の締め出し目的だったが、今はホームレス・派遣切りなど様々なひとが対象。
 - ・ 条件は手持ち金25,000円以下の名古屋市内の男性(女性は熱田荘)
 - ・ 平成18年は800人の相談者がいたがホームレス施策推進本部を立ち上げ自立支援法により減少してきた。
 - ・ 昨年は173人、今年は153人が利用した。
 - ・ 混雑しているときは多かったトラブルも、今は施設に余裕があり減っている。
 - ・ 財源は決算額3000万円。来年も行うことが決定している。
 - ・ 笹島寮は個室テレビ付なので人気がある。
 - ・ 利用者が生活保護などの支援施策を受けられるように区役所との橋渡しも行なっている。
 - 今年の状況(12月29日～1月7日)
 - ・ 相談者169人中153人が入所した(内1名はモロッコ人)
 - ・ 対象者は住み込み派遣・年末年始に寮が閉まる人が約20～30人、・小屋なしホームレスなど。
 - ・ 1/4に就労バスが出るのでこの日の退所者が多い(1/6時点で50人退所)
 - ・ 健康診断(結核・生活習慣病)を無料で行っているが今年は36にんが受診した。
 - ・ 食事は1日3回のお弁当(今年は港区のお店と契約でき、保温容器ご飯が温かくボリュームもあり好評)
 - ・ 平均年齢55～57歳
- 〈最近の傾向〉
- ・ 以前20代はいなかったが今年は20代4人、30代13人。最高年齢は78歳。
 - ・ ホームレス生活のない人がホームレス施策にのってくる。ベテランホーム

レスは声をかけても来ない人が多い。

- ・ 知的障害者・精神障害者が増えた。
- ・ 入所者は若者と年寄りの2極化傾向。

〈職員について〉

- ・ 健福局保護課の職員で昼間は10人くらい宿直3人の体制、休みは10日に1度くらい。

*南部市場・・・平松場長と森下管理課長に施設の説明を受け見学した。

- ・ 一般の見学コースの「豚の処理工程」については、頭や手を切り落とし皮を剥ぎ内臓を取り枝肉にする工程が子どもにはどうかという意見も出たが、食の教育として必要とのことでした。
- ・ 今回予算がついていることに対して「現在、(財)名古屋食肉公社は約100名、名古屋食肉市場(株)は約25名の職員が働いている。名古屋市の予算の使いみちは、名古屋食肉市場は収穫に対する経費の助成、名古屋食肉公社は屠畜作業経費・冷蔵庫の管理となっている。」との説明を受けた。